

書籍タイトル : 言葉にできるは武器になる。

学んだ点

- ・言葉とは単なる会話のためのツールではない。
- ・相手に伝えるためにはまず、自分と向き合い意見を育てる必要がある。
- ・思いのこもっていない言葉は相手に不快感を与える。
- ・言葉にできるということは考えているということ。

結局のところ自分と向き合って思考の研鑽をしなければ、相手に響く言葉は生まれない。スピーチ本などを読んでテクニックだけを学ぶだけでは相手は動かない。この書籍でいうところの「内なる言葉」をまとめて「外に向かう言葉」に変換するというトレーニングをしなければ、相手には伝わらない。

感想

言葉を伝えるためには自分の思いをまとめなければならないという筆者の考えは確かにその通りだなと思った。スピーチが上手な人を見るとついついテクニックだけを習得しようとスピーチ本やプレゼン本などを見がちだが、それ以前に伝えたい思いをまとめる努力をする必要がある。

自分の考えを磨く方法が書籍にいくつかあったが、まずは思いを書き出してみる(アウトプット)を試してみようと思う。そうすることでなんとなく考えていることなどがはっきりと見え、まとまってくると思う。

新事業などで企画を発表するときにこの書籍で学んだことを活かしたいと感じた。

物事を伝えることに苦手意識がある人は自分と向き合う方法を学ぶためにもこの書籍を読むことをお勧めします。